

各 位

会 社 名 株式会社TSIホールディングス
 代表者名 代表取締役社長 下地 毅
 (東証第一部 コード番号 3608)
 問合せ先 広報・IR室長 山田 耕平
 T E L 03(6748)0002

第2四半期(累計)の業績予想と実績との差異に関するお知らせ

2021年4月12日に公表しました2022年2月期第2四半期(2021年3月1日～2021年8月31日)の業績予想と、本日公表の実績において差異が生じたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 2022年2月期第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異(2021年3月1日～2021年8月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に帰属する四半期純利益	1株当たり四半期純利益
前回発表予想(A)	71,300	△500	△300	170	1.88円
実績値(B)	64,751	1,134	2,002	1,890	20.94円
増減額(B-A)	△6,548	1,634	2,302	1,720	
増減率(%)	△9.2%	—	—	1,012.0%	
(ご参考) 前期第2四半期実績 (2021年2月期第2四半期)	56,270	△10,469	△9,642	△14,434	△158.70円

2. 差異の理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、新型コロナウイルス感染症のまん延に伴い売上高は計画を大きく下回りました。一方で利益面においては、仕入及び販売コストを抑制すると共にプロパー消化率の向上に努めたことにより、在庫評価損の圧縮分を含めて売上総利益が改善しました。これに加えて、販管費を抑制したことにより営業利益が大幅に改善しました。

また、受取配当金が計画を上回ったことや為替差益1億33百万円を計上したこと等により、経常利益も予想より良化しました。

特別損益項目においては、投資有価証券売却益8億9百万円を計上したこと等により、14億43百万円の特別利益を計上したことや10億円の臨時休業等による損失を計上しました。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は18億90百万円となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、9月の秋冬商戦が想定を大きく下回る見込であり、緊急事態宣言の明けた10月以降も危機感をもっているため、前回発表の予想数値を据え置いています。

以 上